

海獣人

東カリブ編①

2024年10月16〜18日の3日間、約1年半ぶりに東カリブの国、セントビンセント・グレナディーン（SVG）を再訪した。人口約11万2000人。面積は、長崎・五島列島の福江島と同程度の390平方キロ。約10万人が住むセントビンセントというメインの島と、その南部に100キロにわたって広がる約600の小さい島々で構成するグレナディーン諸島の北部で一つの国となっている。このうち有人島は30未満。今回は大日本水産会、日本捕鯨協会と筆者の3者で、捕鯨国であるSVGにおける鯨類資源の持続的利用の取り組み状況をバルワイイーとベグウェイ島の2地区で調査した。また、昨年9月末にペルーで行われた、第69回国際捕鯨委員会（IWC）の結果などを踏まえて政府関係者と意見交換を実施。ベグウェイ島の捕鯨従事者とは意見交換議論を行った。

10月16日早朝、肌寒い米国・ニューヨークから5時間かけて南国SVGへ。カリブ海の観光シーズンは寒くなる11月〜翌4月のはずだが、飛行機は満席だった。SVGは山がちな地形。首都キングスタウンのホテルから車で35分ほど。島西部の集落、バルワイイーに行った。人

レゴンドウクジラ（現地呼称・ブラックフィッシュ）を捕獲する。IWC管轄外で捕獲頭数などは不明瞭。年間150〜200頭を捕獲する。平均して1週間に3頭ほど。盛期の4、5月には週に最大20頭を捕獲する。

フィッシュを捕獲。漁村一帯は、鯨肉の解体、搾油で活気づいていた。近隣には日本の外務省予算（2018年度無償資金協力「経済社会開発計画」4億円）でクジラの加工処理施設が建設中だった。昨年7月1日のハリケー

トバゴはSVGの約30倍、296億1900万米ドルで世界110位となっている。経済格差は否めないが、「2か国の鯨食文化が分

水産流通の最大拠点でキングスタウンの「リトルトーキョー」として親しまれているエリアに行った。1987年度と88年度の水産無償資金協力6億4300万

円で日本が供与してきた魚市場である。リトルト

持続的利用で意見交換



海岸での鯨肉処理

を水揚げする傾斜路は海面から乖（かい）離するなどの被害を受けた。予定より1年以上の遅れだが、間もなく竣工するそうだ。日本が18年にIWC脱退の決断をした際の予算で、それまでの日本に対する支援への謝意が含まれている。

現場で「干し肉などの鯨肉は近隣のバルバドスやトリニダード・トバゴに輸出したいと思うが、どう考えるか」と尋ねてきた人もいた。

参考までに国内総生産（GDP、24年）をみると、SVGは1億1600万米ドルで世界179位。バルバドスは約6倍、66億5700万米ドルで世界152位。東カリブで唯一日本大使館があるトリニダード・



カリブ海諸国

参考までに国内総生産（GDP、24年）をみると、SVGは1億1600万米ドルで世界179位。バルバドスは約6倍、66億5700万米ドルで世界152位。東カリブで唯一日本大使館があるトリニダード・



皮脂をいったクリスプ



松下政経塾 42期生 松田 彩

1988年7月広島市生まれ、36歳。米国・オハイオ州立大国際関係学部卒、中国・北京大大学院哲学部中国哲学専攻。両国で12年間生活した。2021年度松下政経塾に入塾し現在5年目。日本と両国の3か国がバランスの取れた関係を続け、平和な生活を守るために、為政者を志す。食料安全保障や離島防衛などの観点から、日本の一次産業を強化したいと考え、特に漁業振興を探索。海洋大国・日本を目指す。

塩漬け天日干の鯨肉は野菜やスパイスと煮込む 加工販売している。

もりでクジラを持ち帰る際には時に流れる血がシュモクザメを引き寄せる。これも併せて捕獲。地元では油で揚げて食されている。

バルワイイーからキングスタウンに戻り、SVGの水産流通の最大拠点でキングスタウンの「リトルトーキョー」として親しまれているエリアに行った。1987年度と88年度の水産無償資金協力6億4300万